

水道管路設計指針 改定概要

第1章 総論

- ・掲載参考資料の発行年次等を更新
- ・消火栓のスピンドル天端深さを変更（150mm→230mm）し，高さ調整方法や配管の順序を追記
- ・既設双口消火栓は，改良工事の際単口消火栓に更新することを追記

第2章 管路選定と調査

- ・水管橋の橋台や推進立坑位置では試掘による確認が必要なことを追記
- ・舗装復旧面積の算出は，用地測量の結果を用いることを追記
- ・ $\phi 500$ を超える管路の離隔は標準より離し検討することを追記
- ・管明示シートが管上 40cm に布設出来ない場合の対応方法を追記

第3章 管路の設計

- ・埋設管路に対する地震力に関する内容を追記
- ・市街化調整区域内は，配水用ポリエチレン管を行き止まり道路以外にも布設可能に変更
- ・メカサシ短管と伸縮可とう管の接続フランジ部の電気防食に関する内容を追記
- ・鋼管及びステンレス鋼管の外面塗装の内容を追記
- ・乙切管の最小切管延長を変更（ $\phi 350\sim 600$ は 1010～1020mm→1100mm， $\phi 600$ 以上は 1120～1150mm→1200mm）
- ・GX形継ぎ輪用特殊押輪の地震時抜け出し防止方法を追記
- ・一体化長さの考え方を示した図を追記
- ・免震型不断水の場合はフランジ補強金具が必要であることを追記
- ・仮配管を埋設する際の標準的な土被りを追記

- ・本管 HPPE（水道配水用ポリエチレン管）から取り出す給水管の管種変更（HPPE →給水設備用ポリエチレン管 PE 100）
- ・鉛給水管の解消範囲を各パターンごとに図にして追記
- ・給水管施工タイプのうち Dタイプにて乙止水栓を宅内に設置することが物理的に不可能な場合，道路内へ布設可能とすることを追記
- ・フランジ形バルブを交換する基準年数を変更（30年→20年）
- ・終端部処理方法の選定条件を一部緩和（将来延伸が無くてもタイプ1のパターンでの施工を可能とした）
- ・水管橋や添架管に設置する空気弁の管種を追加（不凍結形）
- ・軌道や道路に布設している横断管の埋設位置を示す標識設置を必須条件とせず，道路管理者へ協議するように変更した
- ・本管口径φ75でも，解析や実測により取水可能水量が毎分1m³以上と認められる場合は，消火栓設置可能と追記

第4章 管路の設計

- ・設計委託チェックリスト（履行報告）を別添とする

第5章 その他

- ・土工量が少なくとも，現地状況確認のうえ人力施工だけではなく，必要に応じて機械人力併用施工も検討することを追記